

CONTENTS 目次

- 2 特集 ありがとう、文化会館
- 8 応援大使 ほか
- 10 ヤイタゴハン・図書館へ GO！ ほか
- 12 はつらつ通信
- 13 市からのお知らせ
- 24 クイズ&アンケート・編集後記

COVER 表紙の写真



昭和 56 年の竣工以来、合唱コンクールなどの音楽祭や文化祭、映画の上映など、さまざまな催しが行われ、市民に愛されてきた文化会館。表紙では、感謝の気持ちを込めて、開館当初の文化会館をイメージし、イラストで表現してみました。

POPULATION 人口 (9 月 1 日現在)

29,755 人 (△ 24)	出生 6 人
男 14,853 人 (△ 24)	死亡 36 人
女 14,902 人 (0)	転入 58 人
13,372 世帯 (22)	転出 52 人
() 内は 8 月 1 日との比較	※住民基本台帳をもとに算出
△は減	

特集

ありがとう、文化会館

刻まれた歴史、受け継がれる想い——

令和元年、台風 19 号で甚大な被害を受け、閉館を余儀なくされた文化会館。その後、国庫補助による災害復旧工事を行うか、建て替えるかが議論され、昨年 4 月に新たな拠点として「文化スポーツ複合施設」が完成しました。この建て替えには、市の財源に加え、文化会館の解体を条件とした借入金を活用していることから、いよいよ文化会館は解体の時を迎えます。解体を目前に控え、惜しむ声も多く寄せられています。しかし、今から存続させるためには復旧・改修工事に加え、借入金の一括返済も必要となるなど、市単独で 30 億円を超える財政負担が生じることから、矢板市にとっては困難な状況です。

長年にわたり市民に親しまれ、数えきれない思い出を育んできた文化会館。今号では、市民の皆さんと共に歩んできたその歴史を振り返ります。



平成元年 12 月 第九コンサート 大ホール



昭和 59 年 3 月 木幡神社太々神楽 大ホール



平成 20 年 3 月 川崎小よさこいソーラン 大ホール

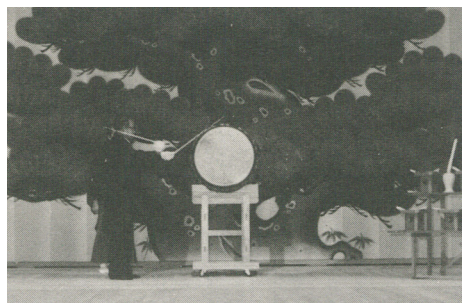


昭和 60 年頃 小ホール

◆◆市民待望の文化会館、開館◆◆

昭和 54・55 年に矢板公民館、図書館が建設され、文化施設の団地化という構想の下、隣接する場所に昭和 56 年 5 月 11 日、矢板市の文化の殿堂「文化会館」がオープンしました。1,112 名収容の大ホールと 400 名収容の小ホールのほか、展示場、会議場、練習場などを備えた文化会館。当日行われた落成記念式典は、市民の大きな期待を受けながら、3 部構成にわたり開催されました。

第 2 部こけら落としの儀では、歌舞伎などでお祝いの儀とされる「一番太鼓」と「寿三番叟」が行われ、大谷元市長による力強い一番太鼓が響き渡った後、花柳徳兵衛記念舞踊団による「寿三番叟」の舞が新たな文化の幕開けを華やかに飾りました。



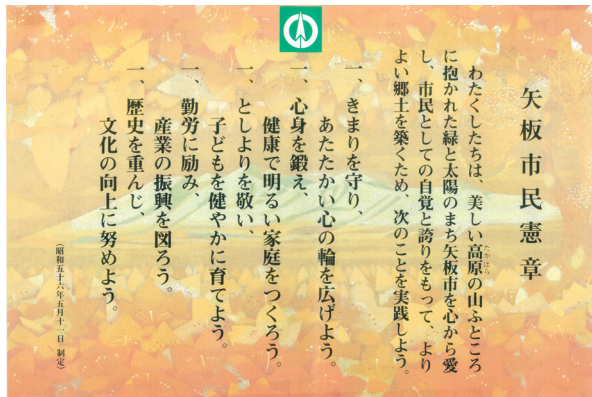
▲一番太鼓をたたく大谷元市長



▲「寿三番叟」の舞

◆◆中国文化艺术団、特別公演◆◆

昭和 61 年 6 月、文化会館開館 5 周年記念事業として、中国浙江省の文化艺术団を招き、特別公演が開催されました。舞踊、曲芸、器楽、声楽など中国の伝統的芸能が満席となった大ホールで華麗に披露され、観客を魅了しました。



◆◆◆矢板市民憲章の誕生◆◆◆

市民が、より住みやすく、心豊かなまちを共につくるために、互いに守り実践すべき規範や目標を、市民の総意に基づいて定めた「市民憲章」。矢板市民憲章もまた、文化会館のオープンと共に誕生しました。策定委員会が設置され、広く市民の声を集めながら準備が進められたこの憲章は、文化会館の落成記念式典において、初めて披露され、文化会館は憲章の理念を実践する場として広く活用されることを期待され、市民の文化教養の向上と福祉の増進に大きく貢献してきました。

その後市民憲章は、「市民の日イベント」や「成人式」で唱和されるなど、市民と共に歩み育まれてきました。文化会館と共に刻まれたその歴史は、今もなお矢板市のまちづくりを支える大切な礎となっています。

▲成人式実行委員による市民憲章の唱和



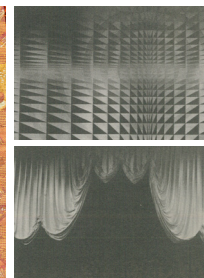
◆◆市民が一丸となった募金活動◆◆

昭和55年1月12日に地鎮祭が行われ、翌年の3月完成を目指して工事が着工されました。それとほぼ同時期に、文化会館の備品を購入するための募金活動が始まりました。市内の金融機関や企業、諸団体そして市民の皆さんに至るまで、幅広く協力をいただき、目標額を突破し6千万円を超える募金が集まりました。そして、スタインウェイを含むピアノや、大・小ホールの豪華な絨帳が設置されました。

資料によると、大ホール第1絨帳「矢板讃歌」は、オレンジを基調に伸びゆく矢板市をたたえ、中央に秀峰高原山を置き、咲き乱れる市の花レンゲツツジのほか、市の木ナツツバキ、市の鳥キジバトを配置し、



▲第1絨帳「矢板讃歌」



▲(上)第2絨帳「空と大地のリズムと連鎖」
(下)絞り絨帳



▲小ホール絨帳

◆◆◆友の会の発足◆◆◆

文化会館がオープンした翌年 12 月 1 日に友の会が発足しました。会員は、割引価格でチケットを購入できたり、楽屋や練習室で歌手や俳優たちと身近に接することができたり。魅力的なメリットが口コミで広がり、ピーク時には 1,000 人を超える人が会員登録するほどの人気でした。主な事業は自主事業の企画運営で、市民の目線に立ったさまざまな講演会やコンサートを開催しました。また、市民大学も大きな事業の一つで、平成 5 年から 20 年間実施してきました。市民大学では、3 本立ての構成でプロの歌手や小説家を招待していましたが、格安なこともあり大変好評で、チケット販売日の午前中には完売したほどでした。



▲▶昭和 63 年 11 月 13 日、市制 30 周年記念事業の一つとして、「NHK のど自慢」の公開録画が大ホールで行われました。ゲストに島倉 千代子さんと細川 たかしさんを迎え、たくさんの人でにぎわいました。



▲平成 3 年 11 月 2 日、コーラスグループ「デューク・エイセス」のステージが行われ、市内コーラスグループが夢の共演を果たしました。



▶平成元年 11 月 5 日、郷土の作曲家「荒井 英一ショー」が開催され、荒井先生の愛弟子の歌手によるコンサートや、カラオケ教室などが行われました。フィナーレでは、荒井先生が作曲した「矢板音頭」が披露され、盛大な歓声の中、幕を閉じました。



文化会館が 残してくれたもの——。



社会教育委員長
中嶋 加代子さん

育んだ地域の文化を
未来の子どもたちに

幼稚園・ピアノ教室・吹奏楽部の発表会など、3 人の子育ての中で文化会館は、思い出の深い場所です。本格的な音響設備に加え、普段演奏できない大きなピアノに触れたことは、大人も子どもも文化や芸術に親しむ大切な機会となりました。女性団体連絡協議会として「みんなのつどい」に参加した際には、シンポジウムに登壇するという貴重な経験もさせていただきました。皆さんに支えられて挑戦できた、忘れられない思い出です。全国各地の文化に触れた「国民文化祭・とちぎ95」や、多くの著名人をお招きした市民大学もまた、強く印象に残っています。人の活気と交流が行き交い地域が躍動したイベントでした。あのようなイベントを、次は文化スポーツ複合施設で実現できたらとてもうれしいですね。これまで積み重ねてきた文化と伝統を、新たな施設で新たなカタチを見出しながら、未来へ引き継いでいってほしいです。

そして何より長年にわたり、私たち家族や地域に多くの学びや喜びを与えてくれた文化会館に心から感謝します。



▲やいたみんなのつどいの様子。(左) 平成 3 年はパネリストとして登壇し、(右) 平成 23 年は司会を務めました。



平成 28 年成人式実行委員
白井 恵里佳さん

思い出が詰まった
青春の舞台

文化会館に初めて足を踏み入れたのは、2 歳の時。すみれ幼稚園の発表会「すみれのつどい」で舞台に立つ姉の姿を客席から見て、大きな舞台とまぶしい照明に圧倒されながらも、きらきらと輝く姉の姿に憧れました。2 年後、今度は私自身がその舞台に立ちました。緊張で胸がいっぱいでしたが、やり遂げた達成感を今でも覚えています。

小学生になると、文化会館はさらに身近な場所になりました。合唱クラブの舞台発表、文化会館をスタート地点にした「ともなり行列」への参加、そして小ホールでのピアノ発表会。舞台袖で順番を待つ時のドキドキや、立派なホールで演奏する高揚感は、子どもながらに大きな経験でした。成人式では、実行委員として懐かしい舞台上上がり、旧友と司会を務めました。

こうして振り返ると、私たちの世代は幼少期から大人になるまで、文化会館と共に歩んできました。私たちにとって文化会館は、成長の記録や、努力を刻んだ「青春の舞台」です。かけがえのない思い出をたくさんくれた文化会館、ありがとうございました。



▲(左) 実行委員を務めた平成 28 年成人式、(右) すみれのつどいの様子。



文化会館友の会 第 3 代目会長
白石 哲夫さん

ふるさとの誇り
第九コンサートの歓喜

文化会館で第九をやろうと呼びかけた時、周囲からは「絶対に無理だ」と言われました。しかし、市制 30 周年記念事業でその可能性を見出し、参加者の情熱に支えられながら、「小さな街のデッカイ第九」というスローガンと共にプロジェクトは動き出しました。脱落者も出しながら半年間の猛特訓を重ね、迎えたコンサート本番。会場にはブラボーの音が響きわたり、参加者全員が歓喜の涙に包まれました。その後平成 10 年まで計 3 回の第九コンサートを開催できたことは、ふるさと矢板の大きな誇りだと思っています。

平成 5 年の公演で指揮を務めたパスカル・ペロ氏は、コンサート後の懇親会で「矢板市は私が育ったフランスのふるさとによく似ている。今日はふるさとに帰ってきたようだ」と語りました。その言葉は今も心に深く響いています。今も、時折この言葉を思い出し、「そうだ、矢板の子どもたちに、この矢板のすばらしさをしっかりと伝え、心に刻んでほしい」と、地域活動に参加しています。



▲(左) 第九コンサートの練習に励む白石さん、(右) コンサート後の懇親会でパスカル・ペロ氏とのひとコマ。

◆◆◆文化会館思い出写真展◆◆◆

文化会館と歩んだ歴史を振り返る写真展を開催します。

日時／10 月 15 日（水）～ 29 日（水）

9:00 ～ 22:00

*初日は 13 時から、最終日は 15 時までとなります。

場所／文化スポーツ複合施設 ホワイエ

◆絨帳「矢板讃歌」◆

テーブルマットプレゼント◆

文化会館を長年ご愛顧いただいた地域の皆さんに感謝の気持ちを込めて、第 1 絨帳「矢板讃歌」をモチーフにしたテーブルマット（タテ 34cm×ヨコ 75cm）を抽選で 50 名様にプレゼントします。

対象／市内在住の方

申込方法／10 月 29 日（水）までに申

込フォーム、応募箱（写真展に設置）

または電話でお申し込みください。

当選者には引換券を送付します。

引換期間／11 月 30 日（日）まで

そのほか／詳細については当選者に通知します。



申込フォーム

◆◆文化会館解体工事が始まります◆◆

工事期間中、図書館北側駐車場の一部区間が使用できなくなります。ご理解とご協力をお願いします。

工事期間／令和 8 年 9 月下旬まで

申込・問い合わせ／

矢板公民館 ☎（43）0469

*月曜・祝日休館



育んだ伝統を未来へ

長きにわたり矢板市の文化の殿堂として、市民の皆さんと共にまちづくりを担ってきた文化会館。市民一人ひとりにとっても、それぞれの価値があり、かけがえのない思い出が刻まれてきました。世代を超えて市民の心を育み、矢板市の文化を支えてくれたその歩みに感謝を込めて、私たちは文化スポーツ複合施設へとバトンをつなぎます。最先端の機能を備えたこの新たな施設では、これまでになかった発想や出会いが生まれ、その可能性は無限大。文化会館が育んできた伝統と調和しながら、新しい歴史が始まります。市民一人ひとりの挑戦や交流が、新たな物語を紡いでいくことでしょう。